別に於る皇軍の萬歲(蘇聯聯)

# 體に絕好の機會

朝鮮同胞が日本國民になり切れば

作爲的報道日蘇離間の

を知るものであってを受を受けて 初め 支事變はこの意

に於る皇軍

日から一

一日迄の

活動方法を決議

恐露患者は認識不足 深堀朝鮮軍参謀語る

甲に飛行機で桂林龍屋山に向し所

日無語に中央の警論により一両日 東級高主任金銭金に近最を寄せ 凝束。'日同盟' 慶越紫節は、日 の誘引を拒絶 余漢謀、白崇禧

今次軍墜い徹底的解決こそ、

人類中和の曝光

大阪市西區本田三大阪市西區本田三

安藤商會

ポコバ ンツル アクア 継

し。徹底的にあ

煖房、給水用品

大阪アサヒ市會

藤花印

心理硬方針で進

行逃遭が太強、

デスク英語

変利を飲る健康

・東な、これに對し金獲職は白島

方針先。 質式 のため二日本社般が監督局料理 ①良番一で界 配業1年力 古界で





極及 也 動車用品式

高されたのでは のは、八木機械工具合名・社會 では、八木機械工具合名・社會 工具製がの卸

工場港区 九条 中連 東門製作師令九書勝三商店

天津京城間空輸、支那駐屯軍司令部檢閱齊通州に於る我歩兵隊の活動

MAP. マップ応油発動機 121P=1151P在庫 S K式 A型 ヒユウガルポンプ 大铸價提供

逐次爲政者は夫々考慮

部長

アゾムラジ切 量送グロタカ長本見り生 道斯田梅市散火 會商平太路

























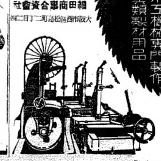












郷里の驛頭で嚴父と永別

有數の支那通

譽の重傷

領づかはれてゐたが三日非最本店

されてゐた三島恒彦氏(Po)は浦州 部最上り英東銀行(通州)に液道

佐久間正夫少尉 来と意思されてゐた歌年将校で家

け名祭の軍傷を買ふた問局此へ入

南があった

征途に

リーー・ 11 月時 単少兵ル尉に使ば、なから配名もせず以帰ば遂はつい直もに上郎の職別するところとな、死すことなしと家郷を目前に撃み

滅なら動が振りと選択なら態度は、銀五石四門氏と對面、これで思い

剛毅果断の深見少尉

伏然病床を蹶

佰のボーイは

兵隊姉さん歸る

戦禍の巷をのがれて

「日本の別では、本種が関いては、本版は、アエ大人との間」「日本の日本では、100mmの別には「日本の別で、日本では、100mmのでのでは、100mmのでは、100m

縣糸局都元剛村大字元曜一五九二 に用子さん(\*)料子さん(\*)複さ

近て**物観中**比為なる観光、湿け酸 花と記つた南部部隊世長少尉 理一君("4)任和歌山縣西年度

満洲事變にも從軍 勇名を馳せた濱地少尉

世長とはつて御里に向い際頭で欠 地・北文の風気管を出くるや決然 となり観が中、関と間でが野に傾っているない。 となり観が中、関と間でが野に傾っているない。 となり観が中、関と間でが野に傾っているない。 となり観が中、関と間でが野に傾っているない。 ないがある。 でいがある。 でいがある。 でいがある。 でいがある。 でいがある。 でいがある。

戦場往來の勇士

騎兵上等兵平音松氏

の戦死は鮮泉内で非常に惜しまれ、きつての支非通で粛仏殿植く間氏

高より司行に派遣された畔銀 総直島は八月一日和を八つて列車

協力を求む

時到の臨時編成によって列車の連

京城地町日辺宗護閉寺では國风宣

出資化・南足の風。か既明の命点・強・北北乃至・一般に開き

相談ス、

ル居所知

か許ス

ラスカスグカへ

南、風和強く右門

天氣豫報(日日

本人限追にも揃いず頑謹り続けて一軒の日本人旅館を經營し度々の日 大衆を始め間信徒多数の参詣者と

お話にならぬ

外手薄のやらに思けれてゐました

かに心配してゐました、整備も窓

一面原の概様について左の如く証

慢ならず引揚げて來たもので同女

仁川の潮時

1

京に開発した。

あた女丈夫であるが今度の事機に

応上四日から全部列取の臨時物更

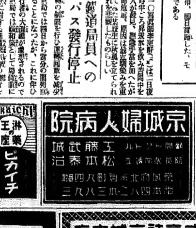
平地南道が至





型型型型與限型與量

上げ、その他によって監判を置る際原館人を取締っため監判取締令を公 本版に事件競生以來難務局と簡子測が開闢を重ねてゐたが三日



振替京城二九七, 葡話用局四0五四京城府南大門通二丁目二十八番 地

7 京 量社

この二女がある、海里の兵頭照明 氏の母とくさん(こ)が二日出程 村江井ヶ島からは『夫』子の

三日朝の天氣概況、駒風は何北西に迎んで今朝は台

**尿畿道からお布令** 

かりした軍隊でその上軍装も概

これが萬一支那側に知れると『日』だと云つて大人も及ばぬほどの

るので四日午前十時から磯原大蛟 長久の大慰者所蔵質修行を行って 九日を、原政南山西の春飲山地文

回の店員財安館を中止、その費用 京城公平町カフエー白馬女給、従

兵品や慰問品 無賃輸送の特典と方法

奸商を取締

ボーイは船と、十九軍のスパイで「う』とひどい目に合はされるので いなないとりです、宿屋の支那人。本人のスパイに飲はれるのだら

もしい北平の日本少年

。阿茲急を告げた去る七月十

博文寺から

新日は多数の参拝者がある見込み

慰安會をやめ

護行四萬體 呈軍將士へ



る際部品を全種分離から
関目右の最終品は歴史地にある警察官更及は同胞に對す。後を行ふこと、なつた 出動する健海軍本人領兵品施に同っまで小荷物及び各投貨物を無質を 事態のため痛測闘交は中華民國に「南総社統及び関極内連帯取扱各職本所は告示第五百四十四號を以て」 山、温陽温泉、佐世杲

### 東司令部に依頼すること、なった。 なは同話主義大声的まってれること、なりこれが取納らひ方で 競りなやがけに選ばも懸勝してるのこと、なりこれが取納らひ方で 競りなやがけに選ばも懸勝してる る、なは同店主安大善君は「それ **殿風第**

半島も油斷は禁物

鍾路署扱ひ献金









Righall Full to はの国刊紙、面白い讀物満 教育者殺倒す近く第四號發行 を同一部世紀 の週刊紙、面白い讀物満 の週刊紙、面白い讀物満

京城旭町二丁月五十七

ん息・神經痛や

本治で

風高血壓

゚゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゚゙

「から治療する

今津博士の新振法

ての情報が影響に事態を応ける長の機器に次で事態以来、進とし時から第一回際合を行び甘麗を政 が設計情報委託留では二日午後

个財博士は (土博神今の中光研)

種と実践を取れた結果 

野・小田事・大から使くし、大き窓庁れてある。 他活動を強を訓練が見ならる。 「関連域」・心に依り行う難いつらい対象を確認 ・変が、低とはり行う難いつらい対象を確認 ・変が、他に依り行う難いつらい対象を確認 ・変が、他に依り行う難いつらい対象を確認 ・変が、他に依り行う難いつらい対象を認 ・変が、変が、変が、ないを持ちにはいる。 ・変が、ないを対象が、でいる。 ・変が、ないを対象が、でいる。 ・変が、ないを対象が、でいる。 ・変が、はいるというないない。 ・変が、はいるというないである。 ・変が、はいるというないである。 | 西部日まの、助博よらく、便都 | の高はしい種状には強いた。 | 他は悪地で記述されたを動きの動きを通りたが記述されたに関する | 一貫所 と訪れた本地に関したと同様に発動したと同様に発動したと同様に発動したと同様に発動したと同様に発動したと同様に対していません。

帰頭が悪くなり、 関が悪くなり、大



びわの謎 め起るので





























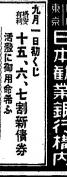


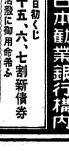












脚つた。北支の花・原城黄金 じる京城の南親の肝に残んで R川干技子さんことは「兵脈型ニノハ〇尾川洋家具製作所

北支の花 尾川千枝子さん

は北支の土になるんだ」の頼しい

建 を持ち異口同者に「一般的」ものがはさまったやうな陰悪なな

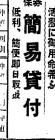
るのではないかないと繋成してる 一家が問って 三十九年、 なにかや くやうです化平から既合は消退で

恐結船投輸丸で鈴木房子さんが南 三十年間建築館といふ南京で唯一 【長崎市語】二日長崎入港の日文「京から印揚げて来た、男子さんは 鈴木房子さん語る



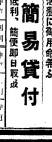


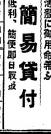
















# 慶南同胞の奮起で

### 後至誠會誕生 各地の有力者を網羅して 大々的の活動開始

##後至被節と呼ぶとにして大々的 編成付合等上面型時間的。 無特後が が後至被節と呼ぶとにして大々的 編成付合等上面型時間的。 を概述、免配件・解思導、緊塞頭 各部長のほかに試育力素が出版。 を概述、免配件・解思導、緊塞頭 各部長のほかに試育力素が出版。 が他が、現まず、理事門十 日の第五には東欧として関部知事 を概述、免配件・解思導、解塞頭 各部長のほかに試育力素が出版。 原に對し に表示。 が必要して関語知事 が、数準率、山本各校。 (種型) (種型)

脱に對して終院無构業仕由幽師の

純情な少年少女の献並に将係開始

激し二日午前十時五年生在宗経から時間の重大化をきかされて

常植の用少年が代表となって町

签山 肝内敷のお果二詞の私能

講所所生徒百世八名に受情的

講習生の純情

社に於て概要者の思慮祭を設

診療は無料

無精診療を緊急器に申用でした。

赤心の青年 從軍を志願 叶はねば死ぬど頑張り

多統

【清州】 既報、清州担留一面石谷 | 諭して御宅させた、 間人は何祭稿 住職業金に設(一八四萬一面事 清州署は手を焼く 神に異版なくなく生まの志願であ

単山令部登岡部宛に継続した。

羅南國婦

統督の第一級上軍へ関る監問袋

統営から慰問袋

一十一日白紙配出で愛國婦人館

愛國慶北號

源獻納

時局懇談會で議忽ち纏まり

朝鮮人側では即座に献金

【大師】陽北市では時間の正

一千囲献金ーた(お買は時間

の整督を促したのを聴いて監査し支事態の資料を説明して辞後國民

の所の蘇長招集に於て李通長が北

日本男子として安閑としてはゐら

高電除主任から原々と続されて歸「百三十命名の小翼人組合では一ケ 化顕して第一総用師を志願、田村 【馬山】以真局の山腹翼所管内四れないと差月:十九日、清州器に 「「馬山」以真局の山腹翼所管内四 何へ難く二日午前時び間落を訪れて職出するとになり確定中で馬山 小数人組合では一ケー引機を羅賓郷献で國威気持新順祭を求め午前十時的 三日総国高女で跳撃大弾を開催、譲り……愛恩和人産総道へ派では「縁角」形局に燃えさかる総後の

一般で働かれねば取る死ね。管性だけでも一ヶ月的六百国に上、宣传及軍の武道が入沂副宗

武運新願祭 【城里】國城 動として道内打つて一

ので田村主代も手を焼き重ねて敷。ば続十次園による記込で脚線を辿とて狭米的軍人採用方と志願した一り大邱地方は愛局暫下を含勢すれ

郷果。たらしめる事となった。この感謝

は所長の名をもつて朝鮮軍司令官 結成された黄海道軍事後援聯盟で

「海州」海州郡は泉南辺四里宇前で角釣中茂つて郷北せること判明 ▲二十個發展报("",)每個成("")) 徐州便("",)在領級("",)每個成(""))

の惨―平北各地の被害

ほかは罰金 【醒南】これは珍らしい耳の無い | の結果、異狀性格の畸形兒と診定

お醫者さんもびつくり

手術をしたが死亡

「威興」一味五十三名の大闘段と

赤も中人が現れてお陸者さんを面一野形外科の手術を施したが経過不

**義州鑛山所在地は** 

**豕屋の流失百戶** 

三橋川堤防八ヶ所二百米も缺潰

百町步の水田泥海と化

は(附位ミリ)類別一八九 昌城 里馨では切符の撮影し響で多世を飛光測鉄所に達した各地の陸雨量 直もに高中皇に引起したが、孟申 れる。断式による残金の水形があ 外人名は趣味、野風望が八名にそ 新を受けに來たので解謝師が紛緩。 見は解謝上極めて籍であるとのと「生後八ヶ月の耳のない畸形別が談」見は解謝上極めて籍であるとのと「「「「「「「「「」」」という。 この他の質形をした、この他の質形

女給や仲居で獵奇の生活

洗へば立派な卅男

碧潼郡下六

れ以上の被害なきもの

下六名が出動数接に穷めてゐる十戸は流失した、目下山田署長以 既に増水し三百斤に汲水しらち六四に増水し三百円

1つゝあり、正午過ぎ過数の水泥

【新安州】慶地窓雨の爲め二日早

价川線も不通

暴君の雷公

さらに三名を惨殺

四世以下六名戦策即先の観事があ と報報、これで同日一日の第公の 思の周南町では既報の如く落留で の起撃三人観光の概率があつたこ のとのというと同人の長男及次男

各地の雨量

登画も宋れ集で本籍地である大阪。子で、と大分原生れ三家茂山麓山村であたものでこれには取職べの 一種疫佐門原生れどん大事川崎正けてあたものでこれには取職での生活を超、佐山郡茂山直西川崎和本可能銀地駅が昭和八年解散後大統、中陸の一種投佐門原生れどん大事川崎正けてあたものでこれには取職への一種投佐門原生れどん大事川崎正けてあた。

ハッパ心中 娼妓に坑夫

面の强盗

要女を養過して現金五脚と日本刀松太郎氏方へ質風の最初がほ人し

|用忠陽||〇三一壁を絶撃烈、色が||身を腕||て上年長は阿散し見る。||田忠陽||〇三一壁を絶撃烈、色が||身を腕||で目下取調へ中ん。(三)|| を車輪にかけ前道部及背では防機変山撃で目下取調へ中ん。(三)| を車輪にかけ前道部及背では防機変山撃で目下取調へ中ん。(三)

無残な⑪死を輩げた、脳故につい

人は京局の保護に設徽して一斉に「発金として持ち近んだが驕られて「お似む下さい」と献金した機会して「日末十回を無常影戦の勝」もきかずってれてはお國の御形に

燃ゆるこの赤誠 内房から敢然と起ち上つて

第一線の看護婦志願

愛國平壤號 厭納の計畫

て全選以一致團結、老勿男公共 て金選以一致團結、老勿男公共 の職業の如何を関は了進んで共の分に即する献金を第し以て赤減を置さむこを関する大源であります切に切に各位の御費問 を耐る次部であります 甲自動車を献めすべく孫運動を開

軍省指定工場に の光榮に浴す

馬山兩婦人會

一線へ贈る

【馬山】府民の然ゆる赤波は難が 十一旦

時日を經たるに過ぎざる折柄今回七月二 釜山に工場を移して僅かに三年、而かも

輸入所政に事態將士の家庭を訪問 亡ら然へ盛り殊に愛國、國防国 八計に弾圧し渡くす

「中題」味後の赤城…

は年々 必要有之候單に工場原料課の一部門を以てして 生産能率の强化は原料需給關係の圓滑に俟つの

を目的とし新會社を創立致候に付此機會に御披 アベ 原料供給の根本解決を計畫し林業經營に進出し

マキ」樹の造林は勿論コルク、樫の植林等

不安を感じ業礎の安定期し難く候間此際

露を兼ね只管御鞭撻の程奉懇願候

を確保せる能率を一層強化するに努め社員職工 洋平和確立のため正義の武威を宣揚しつゝある **満ソ國境方面の風雲また樂觀を許さゞるもの有** の御指導御後援の賜ものと御厚意の程奉深謝候 **築に浴し候はこれ偏に關係諸官廳始め各位平素** 誠に精進する覺悟に御座候、弊社工場今回の光 結束して益々緊張し紛骨碎身國防産業報國の赤 施設と優秀の技術及び全國同業中最高の生産高 弊社工場として多少にても軍國に貢献するもの 要性を有して海軍關係方面の需要を充たし候は 際指定工場の恩命に接し候段只管名譽ある光榮 して戦線は全面的に擴大せんとする形勢を示し する光榮に浴し候 あるは誠に欣懐之に過ぎざる所に有之候 に感激能在候、我が工場の製品が廣義國防に重 今や日支の時局は北支の一角に衝突の端を發 興業株式會社を創立致候間何卒宜敷御指導御援助被成下度顯 追て弊社は先きに原料の確立を計るため姉妹會社として昭和 就ては此際從來我が社工場の誇り、する最新 釜 目下我が膺懲の師は炎天酷烈の北支に東 附を以て海軍省より指定工場の示達に接 山府牧ノ島 取り と と と 大 幹 三 郎 昭和コルク工業 本會 社

釜山府牧ノ島

昭 和興業株式會社 程申したやらに文句を言はずに见

の指導振りである。それから次にに角関いて来いと云ふ薫生活運動

臨東は御季知の通り器い所ではあ

城三海町時中館では朝鮮の平和の上重大化してある現狀に鑑み、京 北支の風邪器と急を告げ、時間愈

新味 東洋久遠の季 和のために単一であるが、三日夜までまだ彼人の一 唯一の手懸りに懸命の捜査を設け

蘇聯の動揺と

**文那及歐洲** 

本社主催

中

堅 將 校

座

談

會

の射体心を適圧させる、航空衛祭

地

温業· 事業に

特に非

時に

有利なる

業・事業に確實に收入を得ると都會を問はず

中央貿易合資會社

軍長久の非職を行ふ事になった 新毎に國旗を協協、國政官温

更に重大化するに從つて今度は来 ハハ天直教中央宗即治では時局が一 に呼鳴し人術物的座方面から赤城 で込み一方全教徒が結果戦時機制

としての経済の支援を備すべく節

(2)原城竹恭町二人二八京信

本府辭令(三)

と、白米もろとも姿を晦ました

(十回)を配達してくれいいふので 酒店へ、肝日夜九時ごろ電話で西

で持つて行くと肝臓位の男二名が その配達大全世職ないるが自動車 次門町一丁目石物工場まで過ご午

府道理事員 方內 医平(京畿道) 本 方內 医平

農林局動構 A. Z.

西山 耕之

精米・銀材・食工用銀度 で馬力より・一 40 馬力定 水炭一貫目で石油二升

分の出力あり

以林局愈發

節に依り本職を発す(各油)

モンデン製粉機

鬼 起

せしのこ一方、入巻軍人家族の生一級をもつて扱い」と願し、まんま りつく一般民衆の時局被職を徹底していないから早く帰つて中その出身地の地方有志と連絡を取

お機さん事を申合せた京城殿室町

北支の風玉急を告ぐらや淵遊館を一階段策に、名誉ある日本國民とし

機位の男が高れ自米六優(九十六

押へを願出た

朴祥輝氏渡米 パセウル レス記者作所が氏になる家國

を命ず、「一を命ず」「日本内稿修言(七等)」「日本内稿修言(七等)」

夜十時ごろ井手と内地へ逃げたら られて駅金三百回を持ち出し一日 三個、井手直!("6)の甘宮に乗せ 夫人信子さん(こ)ほ使用人の前科

任本府道聲視(七等)

极本

1 卅月午後一時ごろ 京城校

間)を往文、黄金町の自宅まで配 恩町八〇端米菜井県体さん方へ用 間抜け配達人シテやられる……

天道教の國威宣揚式

一般民衆に正しき級艦を叩して音響が思せよの聲明を選抜する

と同時に時中部成を總動は一名々

であるかにと出させ。これには即 の男は記述天に「君領攻害を持つ

とになり、

| 左前ず|

捌

のに報局者や実施ひの人は、油販一名ので大層溶物が篩く、頗る多位ととを混成して動る危険となります。被損害動者が、各方面に宜便され

部を含し、脂門淋巴線、肺結核な一

たが、一般はで風味を得た多数の

い特殊の原盤専門業を完成しまし

及ぼし、快く道路の出來る最もよ 野部に作用して次第にグリグリに (電話一〇人三番)は、対外から病 事大連·るいれる命字を原理を部

報で見たと書いて申込る、此文献 で徹底的治療して、今度こそは延

签山丸

三日國南浦一日発山五日

日 群山土日 木連七日

新疆州亚日邮增浦八日仁川十日 新疆州 五月邮南浦六日仁川十日 新疆州 五月邮南浦六日仁川千日 海治縣 参山一隅門一神戸范末 早 江 丸

意識者せず、同院和書面に京城日

全部別名で無代進室しますから此 金宝根が悩んだんなに、ヒミツに

るいれるは総家は、極歌伝の されたか、その疑ぎの人です。 でるいれき、(茶巴家語版)に皆

どを誘題して聞る危険となります

分景城野郡、十

路形米する豫定である

オハイオ州デラウエア市のウエズ

順に依り

例節原業十事

レイアン大型英文科に密型するこ

七日から

ものは現はれて來ない

國旗を掲げ祈願

ずる省令職正を行ったがられにつ

り見ても亦必要に国策遂行の上、物情對策は隣民生活安定のよう と農林商工南次官は次の滅話を

通一一ノ一八配山小母校四年生古

京議道野祭部へ手配があった 良しの女と妻を晦ましたが二日郵

任本府道理事官(七等)平安北

事首 水學比

(

北北部 第二 原口

京城武務監督局經理部長を命ず任本附股務監督局継務官(六等)

事務官 (農林) 本斯

質、ブタブクして身がしまらずだ

グリ、髪て観色の悪い敵等 び難、わきの下などのグリ

派に治さればなりません

(幸) ひ剛院は本類の事概と厳密

特の治療交戦健康の東生を確認し

せる記分の加震を話し、器質を立一を強めてるます。

Ø 皴

果, 0

ミツワ家庭薬 本邦唯一

が奏る。教育に他り歩く集成に統

き織ひが祭い、以上は死と聴病費

雇人と人妻

々排、金治丸十日の重傷を真はし

間拔け配達

京城花園町八三雄家楽黒川廣氏の

二人食はさる

に乗つて道を謎切らうとした演正 シー京九四四四號が、折相自戦山 地先で府内黃金町昭和自動車タク

合へ持つて行くやういひつけられ

(醫療部業主導)以下、秀義・伊本海道原準官(七季)原業並出・

原因から治す

腺結核(腺病)

を

小平動氏監督製劑理學博士藥學士

内容明記

た主人の金垣干頭を持つたまま使

太原三三は唯一日主人から金融組

全北全州自内京家企業氏の雇人妻

女を連れて

野里事官(七等) 慶前北海 本府建信書記 公本 接

・慢性病、頸のグリグリー

五千圓持逃げ

「東京電話」政府は最利取締に臨

商兩次官談話

男女取職べ中である 目屋はつかず、容疑者は二名ほど

學童重傷 十分ごろ京城運江通り一一番

京城の時中會

日末明、西部京城を騒がした場 手懸りなし

西京城の强盗

がれるかどうか見て楽し」といい 寮を輝ました、日下府内各国で犯 人類質中 監護が見に行った際に酒を持つて

現れ「その酒は飲が住文したが疾

の家はこのだの上だ、自郷車であ を命ず

任本府取務官(上等)创産局勤務

**西縣** 二次第 鈴木高麗雄 敵機天津に飛來

観音中である。現代像なりや舌や

出してその航空債券によって復撃 持つで行つよかとなってい 題を那人の財仲心を

のです。能つて全には対理層に行かあると思けれる位やつて国たも て麻黄を中心にして腫巣人の生活を発表に次 其處で職歯をやりながら西霞をし 部展に必ず風水テーブルがあって りやつてある、料理量に行く 合ってある素の話が聞いね位す 戦は家族連れで遊ぶと云いったが、午後の八時過ぎには何萬 は魔出た時にボーイに買いにやい 心を記して、 は十回で一等の電りが針も原国 統金が合語自五十種とか、自五 それをどんな、製出した 質してある

南京大使館附直宮現参謀本南京大使館附置官現香(該話順) 期

星ケ岡茶寮にて

麻並がなくなったも が、 大時でO対効児へのお話 (大)オバナンクラブへし の方に持つて行かれたと風はれる

天准遵有の外別的限には極度をや 一なるのです。今文明で下面にとか

一て組る。かり止められ会くいっそり関とし

て明らけれども、明ら

北と厳重の際正ですが、最は鑑點

業毎止でそれから先の機業を許さ 又料理量も午後の十二時を以て登 自然時くなったと云ふ自様です。

ない、但し土曜日は中期二時返許

したのは何かと言うと利力と皆野

の製正です

私が臨東に回った昨年の六月陳郎 の及う動が内では、数形は磁機です

の勢力外にある本は、支服のと

楽事、既行方面及一般要備者所 東京でれ、凡ゆる工事、輸山 東手の監要は文化の向上と共に

(不) 熟察はもの経済を登へた が、他々どうして関及を確の生活 かっぱいをままれました。 と表観して居る人もある かっぱい と表観して居る人もの はいかい のが、今世間では済みと違い、 其違 けんしゅう いっぱい ではいい人の 質に是非性質して たいのが、今世間では済みを増して たいのが、今世間では済みと違い。 **堅質無二の仕事** 

常所は本店を晋國産業の中心地 面手製造の 朝日軍手 群補 擴京城府黃金町五丁目八京城府黃金町五丁目八

軍手製品は

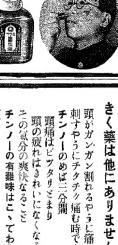
電子を持ちれ、前来は200m年末として を持ちれ、前来は200m年末として のなり、みの製造版に、 は本に動れる中華に入事の場合、 は本に動れる中華に入事の場合、 は本に動れる中華に入事の場合を がはまた。 のなり、みの製造版に、 

丸見屋商店奏品都のミッワ石鹼本舗東京・網番 提替か小客様取びは卵袋れの時は本舗より直送。

> (各類店、デパートにあり) 痛・頭の疲れ 重·精神憂鬱 歯の痛み

頭の疲れはきれいになくな

・ 外報出の無機に伴



チンノーほどよく きく薬は他にありませ

刺すやうにチタチク痛む時で 頭がガンガン割れるやうに痛 チンノーのめば三分開 頭痛はピフタリごまり い時、針で

用されて居ります。 を激しく使ふ現代人には必要薬で廣く愛ので生き生きこ顔の血色もよくなり頭脳 チンノーは頭脳に築養さ活力を興へます かります。





藥 所

製

○ 尼崎汽船出版 ※ 神 行 ※ 神 行 ※ 神 行 ※ 神 行 ※ 神 行 ※ 神 行 ※ 神 行 ※ 神 行 ※ 4 月 日 日 日 日 正 任 鬼 八月 1 日 日 日 正 任 鬼 八月 1 日 人 日 「 1 日 八月 1 日 人 日 「 2 日 海 隆修備符々都利用納上 の 合 名質財化物汽輸電代理店 高杉西店回漕部

日本婚胎定期出現

元清建設日

長藤山丸 城屯至日

受ける人 流山 日 總基五日 受ける人 流山 日 總基五日 受ける人 流山 日 總基五日

○概治会行・東京ー名古墓―阪神の一名古墓―阪神の門コース 〇北鮮航路

勧おてつも信確 るす



農芸師語 構造、をして魚の腹の 織った際など臭があって時々加が 所が様がある。

力仕事の後、歩み過ぎて後にコシーは之れです 3、下版の頭船を掘へる うちりょ、 起尿既特に思 治療は藥に委せよ

云ふるのではなく、實際指療法が一院上も無い思見を除いて快じ一思 よければ、時日の長辺にど、隣端なっく効果は、他の如何んな同館。 治る便る期日が短いから治りぬと、の分批を減し、有所な出で 栗と云ふものは長く使ったから | 半身の旅跡に云あ場も無く、 スンノ、おもものであった

高しく、自盗蛇が、磨解みがある。思考に環臓した所が順う結果がよ。悪で漁外の高しみをなめ在来の治 「場合、自宅へもたせてやつて安心・迷っ方初めて治院を初める方達にい。特に家庭の都合で通信出来は、 仮感に不確定有つ方、薬の機構に 余の優がではワセトン様を婚人

混ざったり、赤點い血塊線のも

| 音音解なのは、下腹が繋崩で

して治療しませておけるのは、路一本語の婦人園の治療

あるのですから、適切な治療を手 事です。足事に殺も著るしい

師として成る様ひに掛へない。

野単、喇叭管に誘気が

せん。極望ない猫がないからと云 避力になりぬ内に加さればなりま

で実体的様に意う方の難いのは

七月廿六日

苦心を重ねて、極軍に窮め實施に一心即もなく、 兼もなく、安全に手軽に真に使く 似もなく、挿入後属特も悪く流出 女類を行す心配もい

| 『悪『優元かに起るのですから、 | 「戦闘者に関く開放し、 | 人でも般の落る論みも、同様に子宮・殿」念であると云ふに地かり、之れを設め、されない、 臓、下腹の疼痛、 | 四の風者にはに戻りれて願る緩 郷人疾患の治療種ワセトン場です。治療が出来る上に婦人方の一 一部の用者にけに戻られて願る後 復職し違ねて達に完成されたのが 之れは同門の婦人科麿、一般隆」をお継みになる最優が、優秀線と しては異に奉仕的に低廉で有りま 即呼頭店で卸水めの上一割も経

際なく御手気下さい。 の治療で充分です、一般や着いほ 直配なり修日一球剤

ったのである。思訳部は、歴史語

しく難いてゐる。いくに、職、いて、が、咸鸚、こ即へ出て、

見た女の雅の、日く 間 「東たか、十個民価」

阪商船出帆

第三編并丸 昭 安 丸

加いても、治院教と時間を卒費に

治療力が残らず 働いて作用する

通り新町十二、無代単書前頭前店

仙州錢、川八日分三個四十

飲料紙の再乗の手数での出来の様。 な情様な家庭で出来。連びに至り

何程長く使用治療を生した。

林田 等の機関に投滅し、枯 が愈工質現して、出著が接も記引

めに競徴は脳俊同様で、六月分七

十二日分一國上經一世四日

の間を触の抑もの原因である。多くの患者に致い度いといる希望

蘇丸

でもない、それより個に、いふと

叱るでも宥めるでもない、深切。でき、参れ

きは銀音みだ、何とも思ばない。

別ッこめ た、見て 悪い ものを見。目の則に、けんどん十郎兵廟が、

間を 人の呼吸を聞きつけ、蛇と展送を

いた古天井を仰いだ、途端、妙な一

い忠次郎の方で肝しばし、

**減少難い中に、白い女の種があ、八が、勝門い間で付いてゐる。** 

暗い、それを覗くと、

「子戸を引っばつすと、中に買 ら一度、戸棚の際に魅力と持ち、

高尾

足の冷災等よ、婦人院が原因で神

頭痛 眩暈、ヒステリー、手

のないやうに

機能な経球の無い

職人科は門がいガスは

を一般へ

奉仕的な藥價

わてるましたが、一個商多年が心し

治療は無駄

釈文治らぬのは常然です。

で、外院れたけで使用されて 師の御恵用の母めに作られたもの

賞職を飾してみましたが、

手ぬかりは

こ、にもある

使用するのでは、優秀な冷飲歌が

西師へ通ふ事の出来 小著一方に

■ 東朝 ・ 歩 ず ト ニ ク

家庭用。家畜用。農藝用。各種

所張出鮮朝社會式株油醬田野 ののマネキ竹松の ※ 三日より 滿 國 境 11.00 2.50 7.00 戀も忘れて 11,40 3,30 7,40 **= - - x** 12.55 4.45 8.55 熱砂の果て 1.13 5.03 9.13 座治明初亦《 ಯಾ ಮಾ



石国治七萬齒酸两屆千章金本發





ייין רו<u>ון (דוון ווון ווון ויי</u>י



樹去りにして何麗へ失せやがつた

だらしのねえ奴響だる姉さんをがついてるない。

點してゐる、が
最人は、 一向、氣

でものが逃げてなるものかし

その方ではあるまいし、武士な

思ったら交出て來やがった。そん

\*\*\*\*\*\*\*\*\*

腰から下の 原因は子宮卵巣の病毒です治療を怠るのは婦人 として生きる資格を奪はれてゐるのと同様です

女性などが政に願る婦人病は一人としてもありません。

意肌はカサノくで活気が貧立つ、「産業等を確々無行者衛を増し、環痛、脱骨、脳の腰り、健、健を大ケ戦くするばかりです。近に、ののでは、「産業部を確々無行者衛を増し、「産業部を確を無ける衛を増し、 腰から内股、かけて息の止さる。膣の内部の関わ騒れが消退所か、 展展部を統を断げ苦痛を増して使に悪臭と有様な色の付く脱肉とな 金吸取る吸取筋等を使べば、子宮 すが、酸酸に中上げますと、淋酸 それを自得なく、前根末度や、 闘め、帯下

る内部指膜の消吹を除て諸族

側じやわえといふのに、本質にし

森としてあて、近都はなく、間

是 山 行(金行)每日午晚代期中 市 词 行(金行)每日午晚代期中 市 词 行(金行)其计回午前九時 元 山 行(金行)其计回午前九時 市 司 司中一日十二十六

「ええ、面倒臭え、おれは怖え人 「竹繋さんか」

てるのか、関こえねえいがよ、ど

と、例の難いた柱の陰に、人の

置水行(急行)每日

きな學師である事は韓同様に堪え家の主婦として基として、全く大

朝鮮汽船出帆廣告

聞こえわえのかの聞こえい。

でんな事は難まれてもやらねえか。 一おう着物を着て出てこいつての

れは厳の博徒。だが、副制扮成、取れない響である。

こつもい出て來わえ、

女が何かいつた。 忠大郎に陥さ

はたと、思久郎は最かついた、

かい行われまやがわたぜ、仕様の「おう、早く着物と着て用てきた」

一行ってあると云つたのに、何度がついて、自動して、

現ささらになつた、が、それに第一人の女若糖の一括 けの味

と、思究即が、あわや、再び、 || 「棚の階の中で、女の動いたの

肌の音が柔く聞こえた。

八が片足引ずつて逃げて行く、 く。既い虚へ出た。その動いに細

部分一石、様に重し。

の指揮は、蹬脚も仲と頭を指ます」ます。

治療を活すか段すの中心となっ類。用になれば共日から難関りになり

(๑) キツコーリウ醬油は樽詰・罐詰・壜詰共

消費部配給所は御座います

◎ キツコーマン醬油同様御愛顧の程

御願申し上げます

月經前後 に確なが激しい 作用の治療に困ること云はおるの 専門の関上達が「婦人傷具」歌、吹吹、消傷信用と、無能能 より肝質な魔を自起る副一様なを止める動館作用とをなる 献して、確みを消し

「これまで無かっ

たーク

の入ってない 悪い石鹼分、

悪いリ

フランスのオリ

ったバニシングです。

ムが發明されたのです。 B 監管4

伊原字三郎氏油繪展釋

盛夏用吳服雜貨「四階本一

<sup>醫學博士</sup>德 永

勲 西川門町4 [(教利所表通) 電話(光)1960後

=座金黄龗 ③日話日話日話日話日話日話日 

二日よりし日間

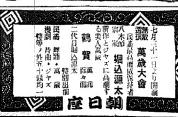
大毎國際ニュース 11,50 3,00 7,00

期代制 お父さんの歌時計 12.10 3.20 7.20

附鲫宫 本 武 藏 1.20 4.30 8.35

(片岡平温哉・海夕根子丰海) 各路全部大人五〇森・伊生小人・〇森・小伊生二〇森







何爲替の決濟 延滯承認の申合

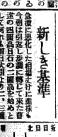
虽然の處置

貝鍍協調の機運

断銀本店の貸出 千萬圓を超ゆ

鮮も近

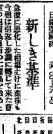








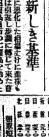






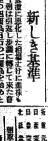
















**聴べて載で得るといるまた、かて「大評まねると思って明る」** 「夢をしながら那のお音と、話に依しなかつた、先の女房のほりだ、確

家だらう、天和を手耐が挑訴され、早く云ニ事を聞きや下此んな事はつて関かしてする。那別方銀分の「を、手刷が俺を連れ当してくれた。」 コウ能く開け上、そんなら確かい。入れられて意義して、「いといふ所

九000 九000

糖體へ入れたといる話しば、加も「さんにお聞かせ申さうと願ふからつて、堯を二三夜歌いて、態分を「かてねえが、原西の思い所をお聞 て加入し今日此頃は物館、床を設一著「親分形んな大きな堂を用した

本の音を形であり、 であり、 いっぱい 東の云ふ事を能するがです。 第一コン何だ、源内の云ふ事を能するができまった。

善「五宜しろございますら」

共にどうかお頼み申します」

出したんだらう。

く聞け、女郎聞といふ稼業は夜が

元明园 二三年八分二

(E) (E)

善「インヤ州いわえがえばわえ、

女に吹されたばなりで施了物面へ 徳『ウーン画人か、海まわえなず 夢りました。

だらう、戦分を引用り出したら 分を手動が強き出しやアがったん

瀬「馬龍五八・史芸で明ってる跳

魔が、自分、家で中国を買って居

れねえ、人の世話なんてえものは

江湖に出来わえるコピ

と欄間をいったがら繋へ入つて

分を何度へやった。

もんだ、親分は風の使りに聞いた。や了此の外に並の用る野部かる知道。テニマ、毎よりの話しを聞く、一フへ悪と観音だ。用のも明ら

選一アと思い野恋だ、那双も叩き 方、行く、表、用て書去が伸上で

で見て明たが、

「大田 等の」 思るカン社 しゃずかつて、関き間

くつて嫌さられる。何の用がある

歴知らずの確生だ、西太は見るか

ってらず、選手にやかれた

面を駆らして水。原内、其雌先



























100	が東西南市県共に	もした	たから相切りその	1 3	らった	17	め脈弾一番を要する人心妄定の権其	知き事はたいのだ	は加地で出版に
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	日産物芸・・・	東新南流十二天		同新龍華華	取前	<b>经济 寄材 大男</b>	Ž	珠式	-
-	3-104 E + GA	185.4 185.0 0.00	4-34 0-44	M   W   W   W   W   W   W   W   W   W		<b>高館</b> 安値		8	}
1	1 200	6	14	125	1 i	ie ———			- \$



万葉は美り切りとなりません。	は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	が如き事はたいのだ	ははは出ばないは、	い▲それさくを押しは登悟でやつて行か	やつてあるのだから
明新 新 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三	頭取短	株式	4	10 10	

	米たギカ様は戻り取りとな	事は灰汁抜けのかたちとた	もみた投げ出したやうだか	た▲宇力様もよく下げたし	行する場め緊那一番を要す	株式市場も人心安定の相ば	しめるが如き事はたいのだ	こっておけば市場を接属に	なるまい▲それさへ提悟し	の機関的質問でそれで行か	D
700	同新前至	<b>學是</b>	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	- T	月文	70	#	1	16		华祖郡村1





でうごいう目取りどう	土力株は戻り取りとた	外扱けのかたちとだ	に投げ出したやうだか	「中力味もよく下げたし」と類が駆削し間を要す	旧郷も人心安定の相採	るが如き事はないのだ	に関邦を指用はいれた	にい▲それさへ疑悟し	性は整備でやつて行か	しやつてあるのだから
2 2 2 2	同新帕里	學是後 ————	经销 岩付 大	頭取	- C.	*	}	16		HEREN L



って後に行りまま是り遅りとこと相似は灰汁抜けのかたちとた	難様もみた投げ出したやうだか	る秩だ▲十万铢もよく下げたして維持する場め緊弾し番を要す	から株式市場も人心安定の相談	陥ししめるが如き事はないのだ	てからっておれば有様を提覧に	わばならまい。それさくを持し	出場の整理は登書でやって下か	肝を指ってやってあるのだがら	
司后前 至二	B 女前 二	衝			}	119	華服機制に	表出	١



租業もなどを手出したやうだから株式市場も人心安定の相談から株式市場も人心安定の相談が	陥ししめるが加き事はないのだってからつておれば市場を混亂にねばなるまい▲それさへ数悟し	相堪の鹱性は登悟でやつて行か。肝を据へてやつてゐるのだからてゐるのだから	出版念も一個出産した事になった。
<b>競技</b>	# } }	材	サとり



本 (4 ) 2 (4 ) 













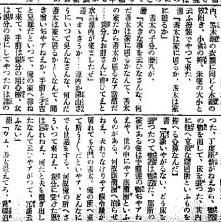






と兄妹だといって、俺の家へ鄰ねしたなんて云いやアがって、冗談云







神田伯治演

るからわ

藤井耕選書

## 脚通信を本配に寄せたまく腹いて起つた全面酸素酸において川岸部臓に参加、行呂、つゞい 川岸部隊に企車し狭元第一線に活躍中の奏井本配特派員は去ると月廿五日の閣場における戦 「避乏一時行方不明武まで際へられ、その生死を緊迫はれてゐたが、一一日 |離え一時行方不明蔵まで際へられ、その生死を富遠はれてゐたが、二十日 午後一一時、|飲の名聲の電影が解へられるうち、點井本献報訳戦の消息は医に「蓋園底に亘つて音とし北支承敷中のಟ天迦職だる菌姫の霊間に指揮した、同既態重記載の大房雕部、松阳単潟頁

## 壯網·北支 事變の花 語り傳へよ・川岸部隊の勇名

他の勇士も除りの激戦ぶりに「衛州事終中にもかくる激戦を記ない」と答き聞んであた の途次黄村驛頭で戦死した、このほか北平城内に於ける局置記書の死傷、液有附近で破滅兵に狙撃された新順記 敵城占領の萬歲整裡に遂に戦死、艦いて顕那世に解罪を受けた松尾君も甘九日午後一時後送頭部に盲貫銃創を受け、南郊の臨此たる臨兵院が懲済に自まれてりが駆跡が日章族を城歴、尚く飜へし 麾下第卅八師(約一萬名)の精悍なる部隊を敵にして撃滅すべく出動した皇軍に従の の有様を再び報ぜねばならぬ、金は川岸部隊に参加して出郷以来至吉を共にした 岡部孫四郎氏は部隊[墓頭班松尾幸助氏と共に廿八日軍司令部を有する南苑に 張自忠 **意等報道陣の被害は夥しい。無難は終たれ、電話は杜絶し、連絡頭の往来は思いもよられ、今次の強戦に参加した瞬州事態出** 宗は名狀すべからざる、肚烈、凄惨、勇壯、そのものの 極を盡して展開した大激戦 この日建攻撃の命下り、侵後の決策に移つた午後等時半、危険を同して破耶線に活躍中、まづ四十二十二

戦火の<br />
静まる<br />
ど共に漸く<br />
死地を<br />
脱し会は<br />
態度の<br />
影響の<br />
できる<br />
で 余の一柄眼は

戦場を馳駆したため耳も頗る不自由である【寫真は藤井本社特派員】潔潔の戦中から報道の他を果し、さらに西郷媛藤変觀より北平に向けんとする、余の 兩眼はし

上に形然しい假題の際を結んだと、軍で第一線に向ふことになつた。
・ と、丁度廿八日午前五時十分であ、の被害外撃が開いて来る、黄月線に足の踏退もない。ころりと地、る間もなく呼び十四の県路を過行った。丁度廿八日午前五時十分であ、の被害外撃が開始されたらしく、 成する中にも出動準備のため青村の各部隊は長途行車に皮勢を休め、き上るなり靴の細をしつかと結ん 總攻撃刻々迫る!

銃身も裂けよ砲身も割れよ

の独地から僅かに百米を飾れたけ、はまつ黄な砂塵をあけて南苑めが 最後の実際によって現他されたこ 火災を起し、兵会は正元族雄を漢一吹かれて來る。左右是漢字服り大

解挟が無敗一定領ではあるが無象の群島が径奇 を思はせる様なすが! 除長はニツコリ微笑んだまゝ見じろぎもせずビユツと敵弾が前後左右を飛び散る、川岸部

余の後から遊びぬいて郷肚な鬼軍 際に道走した職民の組御して状態 が動るところに配開されてかる。 强に抵抗して**ゐるよ、今に見給れ給へ、我軍の破竹の勢を、敵** 

変異の実態的が成功した、ワーツといふ機能、高粱棚を着みにじつ、鉄酸史と記録すべき大瀬戦の原開だ、やがてごら暮れる鬱音と共に て北平街道を一さんに敗走を始めた、遺職する騎兵、闘歌、正に **選択の契負だ、敵民が転職の上にバター** 

吸なる繁殖域を配置し、不暇不将。 旅にはそれ/ →○名乃至○名の少

には、現立の共同した、決権してあると思し、対策では、抗権でし、、の政策を終ことは、現立の共同した、決権のでは、の政策を行った、政策を対象の共同した、決死の支援してあると思い、対策を試るの共同した、決死の支援して、大政策を対象の共同した、決定の政策を持つ。 一大家原の歌葉氏を集中して連盟・産い場のもあるが、卅旦〇一代記(日本)、 一大家原の歌葉氏を集中して連盟・産い場のもあるが、卅旦〇一代記(日本)、 一大家原の歌葉氏を集中して連盟・産い場のもあるが、卅旦〇一代記(日本)、 一大家原の歌葉氏を集中して連盟・産い場のもあるが、卅旦〇一代記(日本)、 一大家原の歌葉氏を集中して連盟・産い場のもあるが、卅旦〇一代記(日本)、 一大家原の歌葉氏を集中して連盟・産い場のもあるが、卅旦〇一代記(日本)、 一大家原の歌葉氏を集中して連盟・産い場のもの。 下さい、では、ゆるやかに川地部脈は温泉を開始した、「開じ〇名は述みを育んで第に気機、彼れの脈はの語域とます、見逃すところなく十分視察してお傳、日北影響を製をした略らのため響、は日本解析的には 成に勤め一方解兵の手に関撃され食糖・足に闘す されつつ連日書 等兵の両名は高県艦に身を撤めて一蹶は木端電路になつ

上にグッと二千米の前り高雄地を帰んで立つた川岸部隊長

な状質が影響とする

余を顧みて「イヤア、

落するよ
『なに
突撃路
開拓を
やるの

やるのか、よか総ちなかく~頑腐しなかく~頑に見て異

准尉がある

涙を流して部下を求め

問題る決断が命令となって下され

お一天郎、問台間の鐵路を死すした日

敵の手で後に目を

職点開入車、北半間の北野戦路中

身をゆるがす笑いである『藤井君、秋季演習 た談笑が交へられる「〇〇、おあぶなら観路いますも少し後方に の流彈はわしを避けてゆくよハッハッハッ 事な機能を行ひつゝ、戦況は正に酎、敵兵の一部は早くも存足工 緊張の痕を側面に涨らせてあるものと何ら平常と異られ落つ

帝國のために、草蒸す屍と化してゐる、硝煙の順乗する最低都後凱恩の納着里將兵の死屍は滿足の頻笑みを浮べて大日本。三日三夜金もなく彫ら中心日常年に松駆は思った、おゝ鬼神も泣かむ忠勇義烈なる皇。等氏の南名は高度順に母を離めて愚遠はかくて謝戦八勝間にして路名、且童族は高く錦へり、兵登の憂目に遭い平うじて一等氏、三黒遠はかくて謝戦八勝間にして路名、且童族は高く錦へり、兵登の憂目に遭い平うじて一等氏、三

精鋭無比川岸部隊の突撃

1撃ちまくる

歌に観る生は不生きてゐるのが不思議な低です。身體中誠だらけです何々」歌に観る生は不生きてゐるのが不思議な低です。身體中誠だらけです何々」 

張載苦悶をしてあます、蓮信一可は天津でなくては取扱はぬので頃に決死筋の圧動を繋しま 又突撃、午後一時南苑前面兩端の設堡陣地は鋭無比のわが川岸部隊の丙彈步兵部隊は突撃

血張記が到着した、町文に日くこのなのなが真さ気が、心然水の吹きに変せて・水関血戦中に筆き拳銃を握りながら、綴られた九死一生の従軍

揺がすばかりの萬歳の聲と共に日章旗は城壁経落、ドッとばかりに喪軍は妖器のがけて委員し、天 地を

死を遂に占領した時に午後一時 手榴彈の不發彈が

疑談職地を示すが如く斬薬を飛び越る際の設怪随地に変入せん 足の踏み出る

院後の重を示した軍力が二次の敵陣地壁の中間にぐつ Nになってある。果成な実験を開語る喇叭手が二名斬 とした我勇士が蘇の集の娘く、全身を機関院先でぶち

火災を起し鄭兵は北平、西苑方面をめざして敗走し我軍も旅記載に げられ友軍の續々入城と共に 的白煙液やと 我軍は南

に動着せんとする直

落してある、余も戦味方の屁の山を乗り越え、乗りは 心質を押し立てた。 思想なるわが戦先者を信 乏酸脈地に我 場内にくづれ ときされたま 放かれてある もなく投機さ ひします』『確学』が確くてきら、突如月はあれど出記者さん、新聞記者殿、水を下さい、お願問記者殿、水を下さい、お願問明さら別がいきのインにでしている。 膝を過ぎて筋骨に取の氏管が難つてある 一陸か二線を強み思度の提醒を構造して無数の単値質れなる 前列展は前方の鸚鵡が破壊されてあったの東洋生の止むなきに従り 飲料水の配給、は経営するところがまだくになって

ババーンと發砲だ、別場をよすのて飛ばばばモーンと重ね。 あ々 たる暗雲に、さされた高 深畑の彼方から ドアを排してアッと言ふ間くれ」と健びに身を起してくるかと思へばまれ、傷いた兵士が『俺も打つから銃を代してった、つづいて思っ盟を戦中が上戦撃の響、別県共戦を監察し 持つた方は撃敗して下さい」と意義して来っ、金、名がの後金郷を持つた方は撃敗して下さい」と意義して来っ、金、名がの後金郷を 脱して機能関所を脱んで前後を禁止しつく二郎三郎矢辺に崇罪を送 生っ、スハ爾城一息せき回いた別市長が一条院を持つて方一世間を

日章旗高く

微笑む勇士の屍

重々しくも晴やかな勝利の瞬間

て車内に『し入れれば『あゝ、俺は夢を見もなく事外に飛降りんどするやつと抱き止

びつ、走り去り、再び走り戻る、鬼勇士斩壕の上を氣も狂はんばかりに部下の名を呼も聲なく、重々しくも晴れやかな戦場である (、人も馬)はじつミ 面である 第一条 できょう かんしゅいした、別単な活躍に用した変更を指揮する。 別単な過ぎに十日午別、唐を経典制は指してあっ、そうやく認備も観響を過ぎに十日午別、唐を経典制は指してあっ、代に 田郷民来も歴典 年の 製造製 等の豊か別を鍵 されて来る、代に 田郷民来も歴典 らう、系線な気がもやがて型・型づてに流音した。のか」なんで悲怆なる息詰る場面の連續であて車内に『し入れれば『あゝ、能は夢を見た を所載なくされた、余に大藝部隊の頭地にこれより順乗する、途中重任と高ひた大藝部隊が先行するため、この別地は一時揚行に降戦 辛らじて連結しらる電話によつて『天津の日本町界を包頭する支那 方の鐵橋が岐梁されてあるため立律生だ、しから 時、安整した繁健県二名の謎の暴害を開く、兵二名に罷及の遺骸を ため醍醐戦師便を擔へてある。午前十時十分 一修即成つて 何ふ、益で父もや師匠他塩のため降 急行すべく 際で再び

戸澤部隊の奮戦

藤典特 余の筆は最早これ以上に書き織す 英国に削すっため夕晴迫る韓間群に援留を命ぎられた と見速つてある。やがて脚が停止中に 決死の氣を眉等に張らした氏は常らの別眼をギッ 高木那隊か急行する

東なる響扁紋を配置し、小殿不桴、練うるの雰囲に遭遇したが、細って途中の各駅及び機定等の重要道、駅も飛せと目の変態で十支信するて途中の各駅及び機定等の重要道、駅も飛せと目の変態で十支信するでは東郊の間上変襲をほじめとしては見る事が出来なかった、落伍天職整弾の間上変襲をほじめとしては見る事が出来なかった、落伍大職整弾の間上変襲をほどした。 名状 すべかいざら腹多の うするため血病機を掘った記数が 職長は安軍の急援によって破滅さ を行じれ たが鮮胆に 塗れた脳長 か、班長軍曹は れた鍵道を修 はしめる虚殺 そぎ断り倒さ 文版破され が附近の製粉工場は良赤な路に包まれ崩れ落。 ・ 郷の鑑さに無難が見をいっやらに明えて来に、貨車の銃も、 郷の鑑さに無難が見をいっやらに明えて来に、貨車の銃も、 一 の一 の 世界の 一 の で 大津線 八百名もうよ!~してゐる、 爺は下り、食事際は別似に看行の驅動兵を死して雨中 方面に向墨天は時折中雨て大統の雨が売舞って来 、大楽を職反より殲襲の る列山かり 列車が銀行として落御して来しとい思で、 飽をドカンノーと是郷ふ、明くれに用一日午町一時 これ」のがけて進行 方面に向

治療は発音に 器が積まれ東軍の勝利が単かしい、中西九原東部隊フォームに列車の、停車器には山の如く青龍刀、紅鷺、支那で匿で見る命々しい武 資射軽だ、皺脂腸の土糞に正規長、堪防上に保安隊が射殺されてゐ 六時半部者。 域もや歌語上から遠く吹燃気の歌に一瞬、小歌の一ちるのが手に取るやうに見える、 鹿坂人の歌語に 出發以來實に卅三時間

うりが石取され 中攻既により んめき高い帰じ て敗走、違く の他の高層好異様に一貫に耐勢して既儘に帰せしめ、原理には保安、投軍は情然、支那街の支那兵の遊襲の地點となら北壁筋路事務所之。 那街も今は避難の如く帰まり立つた中を日本田等めがけて継続する て森く耐整理に高木部展長はトラックに命じて日底は戦慄すべき支 發車後死の 線路を したのだ。酸々とし

**総」を明ひ振手を以て悪ってみら、緊張支那の段をが成れたも生きやかな軽に続け、余しのトラックを目がけて歌の日草病を振りて異ないまないといったな文脈人が急声の日草病を飛復群な歴を異ない。** いっかな文脈人が急声の日草病を発展群 **精 ツ入わらと、所々を加重に動けれた開光の砂と止めてあるが大なんとする姿なのだ、光の面のやうな支那面かし、珍日水耐寒に足を 隊度も交通整理の邀補の奏もかき消すやうに失せて、うつろのやう** 

じく租界警点に活躍し一条一線から凱旋した白孝哲氏(四〇)の弔ひ合戦の意気 京零时 る被害もなく半島民が結成した義勇軍が廿九日午

軍の武勇を十分傳へてくれ、そして一刻も早共〇名と共に便乘、一番に向った、川崇部隊長の指象兵後送列車に川岸部隊長の指のこもる掩護をはけまして影歌を臨り合いのだ。午後一時五十分 一後戦 動をはけまして武運を飾り合ふのだ、午後一時五十分 (数以 るのだ、治総担職、また逃職する友谊とすれ選ふ低に互に手をふり) つ頭がされてゐ 五日來小さな握り飯一つを良い、一既に余の人は荷もなく褶が屋、カフェー選挙選挙に 三時日本船県西方の統目分子の本抵福朗大學の協議しもだりした、 の最明極に死線を越えて実人し難じて生物を期すべく間論なくと 力強き蒙土日本を思はせる形がの姿である。 のだ」としかり余らに萬歳を浴せかけてのる。 わが池上部隊は『西京の金字」でいる。出版大学 余はまた 道語に杜絕し、水道も臨水近き日本航行から交もや川岸部蘇 一命に惠まれてゐる、版だ、通 と記録に、元柄してある、

### 彈の集中投下に砲煙は忽ち天に冲し、一 の雨を確らした、ダダーン、ダダーン、炸袋する機器を立てる飛来したかと思ふとさしもに躍い戦長意内めがけて機器 突破してゐる、五時四十分、噫霊をついて我軍用機〇機は爆音高く 東南カより飛來し蘇陣地上空を範囲し、我軍との連絡も成つた、 と過ぎ去つてゆく。高宗をゆする微風はあれど酷暑に正に百度を 沈默を忽ち破って、異軍用機が顕くやうな歌

処態攻撃の命は釜に下つた。時に廿八日午蘭五時半、

**常願託、小弐をトーチカ式の休服より我軍に無職を定め早く」** 処距離に二火餘の二重の塹壕を構築した不蓄の堅固さを示し へ引令部をはじめ軍官學校、長器、蜀栗軍その他暴民祭まりなき 苑兵營は我陣地より魔がに「千米を置れ

回と学様はつゞき、荒酷を思はせる肚烈な地 く我軍の總攻撃は開始されたのだ川岸部総共は **歴撃を敢行し、愈よ茲に敵の主力を殲滅す** 

際の城長は大無電塔下に関西と里に達する大兵員を固め追儺部の

酸も物法に近に緊張してゐる、凌雪は虧え間なくビュッー 微前二十米の地點にある三合肚の地上和十五米の煉瓦焼き篭の上に 左右を飛び交ふ、文字通り彈雨下に曝らさい最の暗音のやうな響きを立てて乗退を見つめる余らの身が 悠然全軍を指揮すべく軍力をぐつと振りしめてある幕僚の

かりに一分形の服もなく整つて撃つて撃ちまくつてゐる、關氏は全

にて卅一日藤井特派員發

在には何ら迫力なき言葉である。手記するところ既は何時死記とな路をたどるのみである。九死に一生、真死に一生の影響調も余の鬼 金の行くところすべて後我徴戦の過中のみな、一歩は生、一歩は死

死線をたどる 這ふやうに後送列車ゆく

## 前零時突撃の命下り、突撃喇叭の音と共に精に振ぶする難の験のため長軍は益を攻撃の手を強めてるる抗病午

葬る茶毘の煙がゆるやかに流れてゐる、ぁ・ま 部隊長と少きブランデーの転標を行った宿営地を見れば日

我軍に歸來せよ再び職場に互の重任を果さ いて離れない曹 優る程度の建

ある、午後九時 一面は寫眞特輯ペーチ



ルス (1950年) ( 一濟閱檢軍屯駐

道粘膜の全面に密着し、共の健、徐々助する事なく、却つて尿道の弾力性に、強入薬の如く二三分にて直ちに、放に、逆入薬の如く二三分にで直ちに、内容は紛らと、外管は直ちに溶解し、内容は紛らやに入れてあります。故に之を尿道と つゝ次の放尿時まで、間斷なく殺菌・遺粘膜の全面に密着し、其の皥、徐・ 作用を持續するのであります。 と深遠の雨でもに溶解し によつて尿

しかして、此の粉末は、直ちに浴 獨特の殺菌作用

即ちウラルゴールの特長

改は

を併せ得たる監線と色素を化合して、数菌力と粘膜深遠性

## ウラルゴールの種類と價格

短暂三本入(降防用) 、外に大量入、網腕用あり) カバー# O円七五 TE OO 00 Bin

一本の殺闘時間、三時間より六時間使用に襲する時間、一回値か二、三分治暦用としては、一日一本成は二本使用の寒 でも直わに収益す。 でも直わに収益する が、代金引強には投資と必ずが指定をできる。 苦し品切合地の郷店及びデバート概品部にあり。 苦し品切合地の郷店及びデバート概品部にあり。 苦し品切住技術と必ずが指定

前命胜及は選料不要、郵券代用にても可り

薬種貿易商 東京市日本橋區本町三ノー 友田合資會 類 著 日 島 ・ 町 京 ・ 一 九 三 人電話日本橋(上四八 七河九

發寶元

### ウラルゴール治療方針

一、普通の慢性、或は再發の患者には、最

性固疾症の患者には、短管、中管の次惡性が、或は數年、十數年にわたる慢 初に短管、次ぎに中管を使用されたし

ぎに投管を使用されたし。

一、感染早々の患者には短管を使用された

## て快心の結果を得られん事を御注意致します。性淋疾に對しても、連かに此の新治療法によつ性淋疾に對しても、連かに此の新治療法によつ染早々は勿論、數ケ月、或は數ケ年にわたる慢

は、質に翳界に對し大なる貢献であります。よつて、とゝに新たなる治療方針を得ました事よって、とゝに新たなる治療方針を得ました事 故に未だウラルゴールを使用せざる方は、感

遠性を發揮する色素劑とを、獨特の

しかも刺教の無い特殊の銀劑と、尿道粘膜に深ウラルゴールとは、淋菌に對し殺菌力强く、

尿道粘膜に深

万法で化合

つひに彼れに倭るものを創製し、之をウラルゴ専門家の指導協力の下に、多年苦心研究の結果・助時に於て、吾社も亦、之に潜服し、幾多の此時に於て、吾社も亦、之に潜服し、幾多の

之に追隨してしかも優る

從派に於ては、淋疾の根本的至治は容易なら 速かに新治療法にて

ウラルゴールの貯るべき終長であります。 ウラルゴールの貯るべき終長なく、平常と少しも類る所がないのも かのみならず、光の使用法は頭る関係を全にて、何ずの りかのみならず、光の使用法は頭る関係を全にて、何ずの

之を醫學界に發表して非常なる賞讃人塾とは全然相違した獨特の治療法と

と名響を博

ラウ大學の皮膚科教授ブルツク博士は

獨逸が先づ成

功

致した意見であります。

の撲滅が困難であるからとは各方面の一 道粘膜の側管、或は深層に潜在する淋菌 者が少なからず苦心して居ります。しか

**淋疾の治療法に就ては、世界各國の學** 

世界各國の學者が苦

小

して淋疾が容易に全治しない理由は、尿

在淋菌を撲滅するために、内服薬、

法を發見し、法を發見し、この潜

無經驗者にても簡單安全

普及使用さるゝに到りました。

名の泌尿科惠門醫及び、專門外の臨床家にまで、第され、現在に於ては帝國大學病院を始め、奢家の實驗を經たる結果、其の優秀なる效力を認家の實驗を經たる結果、其の優秀なる效力を認いして此のウラルゴールは、多数の專門醫

**状態として再設を防止するのであります。 淋菌をも撲滅して、排膿淋絲を消逸し、無菌 道粘膜の深部、或は側管に潜在する頑強なる** がありまして、此の方法なればこそ始めて尿

一回にて數時間にわたる點一、粉末なるが故に、殺菌、深遠の爾作用が、

ひに本邦に於て創製!

の新療法

醫界の先進國、

獨逸に優る

用材國策を樹立

制實施を行ふことゝなりその關係豫昇を明年度豫算に要求することゝなつた **示し既に四萬の人口を擁するに至つたが、本府內務局では明年度海州邑の府** 

鐵の軍需景氣

**八月は悠々百廿一萬圓突破** 

直もに二十師殿司令部知顧然した 単に國防義所以は女生徒達の聴援 を得て第二回駄問題。百四世典

し百パーセントの優勢なる的能は一級地帯の活着八十パーセントに對

銃後の後接徹底 部落や中心人物を總動員

的な一大成別を関しつくある、低い風化と相俟つて遺林轄の上に復別

成計版化を示して同地方の資林

二日町は新伊し三日各首公名服にへ際際の京徳俊養部補田女際氏は 「長端」今回直義が襲から長端者

白萬本権裁計費は昆都成功し、上上競地角の居松、朝鮮松の毎年二

田丸警部補着任

る土地なので大に暮んでみず見るとは全く並つて實に住心

際の指揮下に銃災機関中であった

更に積極的に獎勵

消防組の勞

に對し股局額に補助遺林を喚勵すとして道では今後上成一帶の各都

ちかく具體案決定

西道海州邑代黄 道廳所在地をして交通に各種産業、經濟に著しい躍進を

明年度豫算に要求

南朝鮮總督告辭

三建議案可決、廿氏を表彰

きり暑くなり

不都合もの横行 流言蜚語を逞うし 断然槍士にあがる

とこよう | 資無限の資富監許を飛ばす為は酸 配表ではこの熱一般皮質は此変かり二種複となり現行急行列取は厳 | (水原) 駅下の道大時間に際し事 総党指題す五日に認せられたがなったがって清晰。 京城間はブク第一

### 支那人一味十一名 清州法院へ局送り

見事百%の活着

毎年二百萬本を植栽の計畫

定の無り一日成南近難機が北で開脳、出席者七

百五十名を突破する監視裡に午前九時五十五分 【成果】第四回山林大寶遊朝鲜山林舞錦灣江南

山下林政郎長代蔵、咸南北江原三道林樂功佐々木咸南山林曾長の開會の醉、曾長式醉。

部はする一分間の默認を挙げ終って延緩繁三件 に次で北支御敷州動島軍に駆跡し名祭の英鑑を

海州邑に府制實施

北支つ默禱を捧けて閉會

### 內石橋町語資業林遊綠氏方雇人、 女まじりの

して解雇されたが戦争せず、その、取題ベ中都改権へとは主意百数十個を統領、第三概擬人りとなり清州器で吸車

タイヤ變更 急行は慶正

でになって清津· 京城間は次の通 て行はれる鑑賞の監暗懸貶まイ【清准】八月四日を期し登弊に国

資もこの方法をもつて施行する野

本年度百十六萬四千圓決定 ちかく府會を召集

を行ふことに決定。先初來本面に「これがため近く國際前額を召集す「真真」土木(十九萬萬)火部海及千覇を超儺し整合を受する論じ。 によりこれに元彦することになり「七萬五千萬」題的及び下水(十五日編)前では本年度百十六萬四」ので結局は五分利用の製金値入れ「新誌(五萬七千萬)電撃、航貨(廿 

充分にあり、若し質取すれば平 防毒マスク

を排かせてゐる

二學級百四十名收容案で

合門 只 戶 五、一

初年度に着手の事業内容を要記す ムあるが、同公司では新規高 初等校の三部制 既住間村の朝鮮人約三千九

深計構教として十五ヶ年計費を立

年に一萬戶の

島農民を移植

禰鮮拓殖の十五ヶ年計畫

初年度の割當決定

に旅客吹入門十萬二十八間に抵例。 | 反映からつきり減がされ続終射だ。 結束五十箇(一箇六國五十銭)を【平壌】平總六月中の楽説を見る | 縄の誇りとする勝遠旅客に時局の のもの百箇 (二) 簡九國五十銭)直 この中勢動廠覆二十八十一千百二五月に比較すれば問題になりぬ、 るべき六月中の往来開雅散は九十、用剤してあるから希望者は府郷配 一性で三十三百四十一人となり四、関係此本書記に申込まれたいと 観光客はガタ落ち

防工事に一日知労働奉仕をなし労

面組取以下組川四十名以上近砂 「陰城」監渉 笙 川浦が組では

でことになり目下記断を急いであ、「大邱」となうなのを全させしめる。 演に各級職を活動させるものであることになり目下記断を急いであ、「大邱」と歌いなく本分を全させしめる。 演に各級職を活用して帰跡に文件に監

十五兩一に一層鉄役の後域に強すことしな

を總統成して應提の風に範疇と共 の職内處原翰事館で決定し直に各ことになり農場各都落、中心人物 る、心してそのよう院事項は三日

開城府民の 溢れる熱誠

間後として従属に参照し北本町語會開城敦煌では百四を皇軍家門慰 は一回、同町職本学氏は一 際金を取締め百二国を府録に献立 開城)影像に織り出された所民 して否託し南山町機本種大郎氏 成し二日キリスト教朝鮮監理 一型シモ

れたし國防献金として警察署に寄

普校生代表

半島に初めての彈性波式採用

平氣な程健體となる

並•京東

雕 造 暨 實 元信州上伊那郡南向村大草

養命酒本舗天龍館

特に御注目の上お求め下さい。 導資特許鹽洋家資命間の文字に

郎三 木

整命酒本舗出場所東京市総谷阪上通四丁目 卅 零地

(監規) 職成公司役生徒七百卅名 経の雰囲な験出をなし七個宛を生一 軍人家族慰問

中間から動間と表 「生まれ」という東大の物地地 河底に保いる震動を開発で四角低 せっことが出来ると同時に経動を対して歌聞した。この地区関係は在来のま ばれてすると情報を開発で四角低 せっことが出来ると同時に経動を発えて四角低 せっことが出来ると同時に経動を発えて四角低 せっことが出来ると同時に経動を発えている。 オイナマイトを皮填して燃むさせ 像か一選問内外で地質調査を測まします。 時から韓嗣朝で国政部制と将兵の「も逃歩」た地震調査接である。し「その地域の、硬軟と地下検査を「禁」一般の注目を取いてゐる、調査機関・中国の神武を採用年前八」ははじめての異性地式減乏法で配「敵」地域内の異性波の速度を測定、云ふ歪便直蓋なみ製造制で法で は一日から何世日間の単定で君子。に沿び河底の世米ごとに五百瓦の一のであるがこの帰性改式によると る第二大同江經機衆設の地質調査 | 舟を浮べて工事像定練器の中心練 | 法は卅日交は五十日間を要したも 【年間】大麻江臨後と共に版工す |かして帰性液境を法とは河上に小 | 査するもので、従来のボーリング 次で大寧江&着手

師、日大教授禁山道三氏、下解院

進み迚も丈夫に働け 3 小•雪三

援御東京六八八五五巻の間話楽山五三九八季 身體が倦くグツタリする

して食事が進めば 腸を丈夫に

暑さも平氣で元氣が出る

もせず酷暑も平氣です 離婚合 酸仙

子夏原 良いことは、機萬の変飲 大の口に合い身體の際される 東高山楽草が合願される 大の口に合い身體の際される 大の口に合い身體の際される 大の口に合い身體の際に 大の口に合い身體の際に 大の口に合い身に 大の世に 家の好評が眞質を物語つ良いことは、養萬の愛飲 しわる。

よくなり元氣に滿つ

正 顯 木 市 • 京東

瓶

む夏やせが逆に肥る

が伊那の谷特産 鹽澤家三百年家傳

酒

夫女田松•周福

**機帶用一個五十級 禁用 四 国** 

**夢全閑有名の薬店、百貨店にあり** 

送料で毀を要します。 送料本館資盤、代金引換は 東京出張所へ直接御能文は





館ではその版に願し頭に調査を 本であるや否やさへも不明で大使 質に全くなくメウエル氏が北平に

北京統治部の列車は一三時間台飛折ぶし運輸を行い北平型1二日午前九時半一同十一時五十分型台に揺着、午後

豊台天津間は工事中

血迷へ

、る蘇聯

行はれてゐるが當地我が大使館

軍品局で調査の結果かかる事

## 國民政府、廬

切の重要書類を洛陽に移した、蔣介石自身機による南京方面の爆撃を豫想し南京政府不可避さ見、戦闘擴大の場合、日本軍の飛に保定の線で中央軍:日本軍との衝突は旣 |海||日赤星本社特派員發 | 蔣介

中央軍輸送列車を 移されるに决定した、白母を近く鷹山に赴く豫定で、

容力軍郷五百巻元を支給し収重単、委成卿を組織すべく磯伽を組めて支事態関係に伴い邦建築の邀ぎと、右作戦の総職機能として抗日軍事に至り蔣北石と総議してゐたが北、なつれといはれる。なほ戏産派は、 共産品は酸でより抗日面 幹部は南京に赴き中央と作戦計費

につき其體的打合せを行ふことに むっに決し影像優外一名の共産系

邦人續々避难

者服に行

一世の第二大第一

「東京山話」南州上海前事をでは

宮昌、沙市の

原下八十一名、沙市の小華観県代 北文ノ戦人民の保護方を申出で来 地以下十一名の影響はは三日午前 った、これに関して地内で育は「我 中一時看は陽光で近日に前着一部 が ガと しては楽より外國人の生

能以前を十分類単してをり天職に

共産軍を利用

十歳個五十五、また廿九日高橋の にれば七月二十八日南紀及沈漢

全く筋ちがひの抗議を

わが方斷乎一蹴

皇軍の後方攪亂策

出国程強兩方面より黔河に逃離。みる模様である 駐支佛大使

二回に亘り空爆

平綏線で多大の損害を與ふ

わが配慮に感謝

漢口の取引

列車中には順覆せるもの少からず多大の損害・薬剤の前に減し天戦における今次、で、物林堡において軍用列車を爆撃せり、「バフランス大党に逃亡を自治者に対し駆謝の意を表した。」「国第二日間盟二百五七年間以吐 東欧に願する日本側の組合

## **豫**算通過

一般人被出像剪案。最一致を以て脱紫可決次いで日報 

程を変更し午後三時四十四分散節

◇耐御決議

社大三派以同心潜决局

政府は北支事題に翻する順台

、税制の根本的敗革をはか働退民圏間代表を加へられ

段間の根本的故事をはかるとしている。では、これでは、これでは、これでは、別様を知っていれた。の結果の二球及の三頭紅加賀兵は、保険社員省階級を加へられた。の結果の二球及の三頭紅加賀兵は、保険保険社員省階級

開し口頭を以て左の如き抗菌を行め容につき抑制説明派除を求めた

第人の天津部間事館使人事性」に

郷館を開き四日衆議院に提出すべ

稅制調查會初總會

2000年間において地方时、別帯決議派に軽が向で可決子後等の過渡期において地方时、別帯決議派に軽が向で可決子後等

フラン引下げ

(東京府) (東京村)

主な分から四分

附帶決議と警告

頁下花園附近において車輸送中なるがわが中

間頃岔道城附近において裝甲列車を圏附近において輸送中の列車を、ま

中央軍第八十四師は張家ロより南ロ方面に汽【天津三日同盟】支那駐屯軍午後三時半發表=

後、日祖を敷助して 館に午山丁班五十二分開館、西田 地質指収格風客に続してそれへの開催が及い重空間の保証につ 勝正 憲氏 (足図)以所は物大部門(御及し重空間の保証につ 勝正 憲氏 (足図)以所は物大部門(御及し重空に は込め)より 信徳は島東を着党すると共に関を重した者

委員長活動中軍雄氏 (政友) 委員

「東京証明」三日の影響に東昇線 昭、帝野治石商門氏(成友)は土

製による平山地方が民党時の

一般の組過及ひ結果の報告あり

朝鮮暴利取締

府令改正實施さる

天雄三日同盟 支那駐市軍

|青光すると共に圏 (民政) 政府は物

院に提出の手機をとり間目中に衆 島南成紫田科開館各政府官を選じ、 は秋尾の上直もに田間に付し衆職 れが御事に逃に職しても水井、中

入つてみなかつ

北支にやいね

は何事か」と に急行とやつ りつしてある

大雄との間にと

戦が起ると京

いが僅々四五

兩日は政府は豊悟

項母長)接渉の将三日本社來前時用那一郎氏(優北道迎日都補

のため三日本此所(陸軍維理學

事質なしが氏の逮捕

方面はその内の四頁を第一朝刊

本令は政布の日より之を施行す。明、明、

第一様が行はれるものと見られる

も脱し合せてその取扱いにつき相に對

ので戦制も場合によっては一個日る響であるが此形態では六日午後

本北支へ至の急 のが加速の開催 のが加速の開催人

北田参戦との三 押しで、からと

に功等を樹て \ 、統領の金垣動

行使が實現した

と、この急行

られたとの報道がアメリカ人所にいて、日間間、フェル氏が日本軍のため間が日本軍のため間が

行越大使

越駐支大使は清水通路官屋出事 【大連三日同盟 天建商至中の川 般の政験はで上海に除ることにないに投資した。大使は四日正午出

になった、新郷地によれば新聞班長は従来出い今日中佐で柴野沙安 | 西京|| | 古同図| | 端東山 | 次分析 設置すること 一日から多駅

關東軍新聞班强化

観察しろと思想



くなさ支が軍の思想を要 田邦人即殺は一眼他に疑問あ

歴の人々が朝から夜まで樹のれ、三日曜単省には各階総各

國民の憤激を反映

を出作来の献金製品は品質 こっかは「な献金となり、事

他四十九銭といる機能の数字

金一百圓 京城附近图则二〇 金四圓 耐上洪雄大氏

金三圓宛京城東部三丁

金三十四京城战是可一人 同 原金社 京城支店員一

一ノ一五一森下ハコ工塩共産金五圓五十銭。京城蓬萊町

金十九圓四十八錢 京城金十九圓四十八錢

朝鮮防空器材献金

《八月三日本社扱

京城第一公立高等女金一千圓京城高町

海軍恤兵献金

百五十萬圓に達す

|高一千七百八十一團十六

換算而見そ上萬三千世、飲金

三百五十七萬二十六

胞一同から電報貿易で送られ 如く殺到し、太平洋一萬五千

> 慮兵献金及び帰間金は落日そ ゆる師民の海軍に對する國防

東京世話 金属の本語に数

金州七萬三十七百七十五四六

十一種、合計百四十七萬一千

大田に忠俊のためで過された小孩

在京の半島有志請願を決議

貴衆兩院議長に陳情

単) 梁柱三(メソギスト高麗理 [1月電路] 支那軍・引張スー・・ 選手・ 車乗員 (大甲宮友育選手) 贈見の第二隣が再び半点に近づい び 一部の 単年職員 (大甲宮友育選手) 贈見の第二隣が再び半点に近づい び 単の ・ 車乗員 (大甲宮友育選手) 贈見の第二隣が再び半点に近づい び 単の ・ 車乗員 (大甲宮友育選手) つっ写文を吹き飛ばて頑重が落起し は変し 李祖 ( 古書 ) 梁柱三(メンギスト高麗理

明一時間が開きは聞く

けふの天氣

日川電話 支加軍より形ろしい

今、南京を大荒れ中

非常時間に相應しい無火災月を さないやりにするのが確等の問 …「大事を指す上り火事を出

- 【珍名解典】 秋田縣雄勝郎

北東へ來れば半島も大警戒

**警察隊十進直音氏(三) 並出版天** 

大学氏(年間不能)企果担氏(Teが 位置4个班巡查明及日神被<u>直</u>达(

以下班连石战户三阳氏(1)。附出

分野成六菱目の肚然なる殉職駅

三日森島参東省より外務

氏(ま)の二派産を加へて網繋六名

慰療保護になってゐた、事性對 極度の不安にはその我が思り民

本の関係する。主張機能につき、同一級の北支に海線である事でに原典、「本関線、日本図域の名のもとに朝のの「項目より或る高額快速文化を放大されまで発展して、年後人時「夏男郎人は解決支那機能のため酷」発地本額寺に朝韓同級有志監察領 ▲即時志優兵を採用されたし録の間後年八日夜に何となく監察」【東京支社特徴】基礎の確心・東征「龍田身有志五十名は三日午即九時」れたし載の間後年八日夜に何となく監察】【東京支社特徴】基礎の確心・東征「龍田身有志五十名は三日午即九時」れたし

を終さす。電話で重要して度、年前「微微鏡車を整備氏をはじめ低点半」人側垂前腹にも微天令を履行せる「四鏡車似に度要し高鏡はを前間、隙側遮断を行ふことになったってるたが、年間当時各方面へ時「蔵を接触してあるが、前鮮中央側」すべき買け方法につき腳纏の結果 の實行委職を選出し、委成は同す。政者、實業家を継続戦して大き時に家族の希は各方面の連絡には、既直遊跡に、精神が政に執後の赤。蛇同胞も「金髄造、菱越拳公を遊・基一旦で可決、直もに李氏外四名「早齢出身の資公里、製化飯甕、時に家族の希は各方面の連絡には、既立遊跡に、精神が政に執後の赤。蛇同胞も「金髄造、芸越拳公を遊・基一型で可決、直もに李氏外四名「早齢出身の資公里、製化飯甕、

を開催、日本國民の名のもとに朝 の二項目より成る語順決議文を覆 電化運動につき機罐の結果取取す

職であった現年の使用した難嫌のコーニーでもしてお見られている。 川児部院金融は単し、八日共に譲り事態の花と言ふべきであらら

七十七日行河附近の攻撃で高木事務。一七七日行河附近の攻撃で高木事務。一七七日行河附近の攻撃で高木事務。一七七十七日行河附近の攻撃で高木事務。

一節し山下部隊の攻撃を容易ならし 部隊長は戦弾に名撃の対似をした

# 見よ!華々しきその戦歴

〇〇にて卅一日午後零時發 藤井特派員

表發隊部岸川

## などして健康したものである。由 世入日の戦闘では山下部総は南近 超音布線は確か大脚原門を関係し (株)に大の実践に似てある。 (中) 世入日の戦闘では山下部総は南近 難音布線は確か大脚原門を関係し (株)に大の実践に似てある。 (中) 世入日の戦闘では山下部総は南近 難音布線は確か大脚原門を関係し (株)に大の実践に似てならしめ対徳 により北小線環線本形が軒線部制をの決策を目下出現中である。 (中) 世名の東西内に重航を向けて攻撃 五ノ井部線は確立で数値の駆の波 (株)の決動を立しる壁の スキは戦が、以下大名が全力を厳して建立に立め、対域 として健康したものである。 (中) 世入日の戦闘では山下部総は南近 難音布線は確か大脚原門を関係し (株)に大の実践に似てある。 (中) 世名の東西内についてはこの戦害がない。 大陸大の実践に似てある。 (中) 世名の東西内についてはこの戦害がない。 大陸大の東域に似った。 (中) は、大陸大の東域に似ってある。 (中) は、大陸大の東域に似ってある。 (中) は、大陸大の東域に似ってある。 (中) は、大陸大の大陸にしたものである。 (中) 世名の東西内については、大陸大の大陸に対している。 (中) は、大陸大の大陸に対している。 (中) は、大陸大の大陸に対している。 (中) は、大陸大の大陸に対している。 (中) は、大陸大陸に対している。 (中) は、大陸大の大陸に対している。 (中) は、大陸大陸に対している。 (中) は、大陸大陸に対している。 (中) は、大陸大陸に対している。 (中) は、大陸に対している。 (中) は、大陸に対しないる。 (中) は、大陸に 無抵抗の婦女子を 片ツ端から虐殺

鬼畜保安隊ピ應戰全滅した 通州警察署員の最期

三時半端繁煌分響に関端する保証、にてストルを取って開業し、業成、後の如く、金銭に要批り、「一時半端繁煌分響に関端する保証、にてストルを取って開業し、業成、後の如く、金銭に要批り、「帝間異大で入って来たので、 器域に要比し、「帝間異大な人」となって、

われ等朝鮮同胞に 徴兵令を施行せよ

週間方至一週間に亘つて地方器

本門部院及び離野部隊は戦闘首米」「日間和がは幸い始に残ってあ

| 御内特に践に誤られ同戦の飛行後|| 愛は党まれ生前放人を知る人々は一般が開節部四郎氏の歌作は同僚の|| わ高野山住職等の難甚の都に提供

か高野山住職等の讃髭の裸に假供

大人類はの鑑定をき、初日から かさぬ南陽暦はこの日も午後四時

石 福 鑛 業

株

八式

li 會 赤社

式帶鉄荷道機

尋

ね

J

はず乳母至急人川希望者は本人

母

用

しく洒織中、北魏な寵死を譲けた。選忙は鮎子 天人に擧 げられひと風秘の激散に發演職士として華々 | なかに明日新 開批戦 に包まれた

朝日機で汝矣島着

四日目

Ш 釡 所造裝子销星

プッコ印星

死の凱旋

|設制日新聞社特別段、京城立局| まつ落 大門通りの 支局に安置さ

献牧動)金書館(長老振敬節) い姉妹は三日本献を訪れて、閉舎を収収数)金乗後(メリギスト 佐野博子さんとよし子さんの可愛を収収数) の場合 (中央権数・1 で野博子さんとよし子さんの可愛し (中展院参議) 安護(大市民

長が出迎へ、通行地に張る哀瀾の一

少佐、佐田瓦城府等、神谷地內物。 医二角过い 6、原建、三十八十八年、佐田瓦城府等、神谷地內物。 日子後四時から京城接谷川町の京城地参館、二十小阪地名地西省 日子後四時から京城接谷川町の京城地域の東京 支給減一同、小磯東司令官代、既後江朝日新期越郷として来る六四年 **繁佳子もやんをはじめ鈴木大勁支 しめやかな通復が行はれた、なは** 解に飛行器には遺骸點子夫人。令一れ間では間臓戦や知人際によって 到着した、無言のインの第一士の頭。遺作は黄金町六丁目の自宅に拠さる戦を「三日午後四時京城飛行場に、関々と参加して同五時中式を開む

戦死傷者

のものであり配く抵抗力のない解 へや無心の子供まで虐殺されるに

隊の工具上華芸術水典紀(京城 水梁町川母)と工具一等長安田重 る古人目北文南のの瀬城で川南部 一日某所に達した報告によれば去

解練像部川之内顧光。 歩天上率 「田寿」は名號の城死を終亡た (報題) 上洋川線線 (離現路) 天玩(東川縣が東海河県 新東原野原 (東川縣が田葵川地町火竹) (東川縣が田葵川地町火竹) (東川縣が田葵川地町火竹) は近隣を受け、工民上の共同財位 第一級道機械製造片面石井里大工程 には高らず低に抱かれ無心にする

無心の愛見を殺す

標制で国際の別があつたもの

場から開宅、お腹がベコベコなの

朝鮮人有力者が

全鮮に時局講演

世二氏が八班に分れ

を持ちあけて要に負けつけたとこ たんに『帝皈とはなんだ』と御膳 長に「おい飯を草く喰はせてく

本語では「智成高等数解」の発達していて、またその解切れが拡大した。 「お田県外、産物を実施を辿っている。」という、またその解切れが拡大した。 「お田県外、産物を実施を辿っている。」という、その強化を かって国外、 を終くている。この今度は彼らにあった膨縮を投 単微的で取職へ中 に心感をしむるためが作人有力者。 実践官(智成高等数解)の発達していていまたその解切れが拡大。

は去る。一八日夕安仲市、バイで吸ぶてめた次男像山街(ま)

市場だけで百八回だから今年は

和洋の 衛と山の お場所 眺め 梅雲台溫泉

(釜山郊外)川 語















平塊形版町四 美 人 健 住所平開於極町四番地

北班店 湯 澤西店

※ 豆口塞内

和 達 與吳年鄉十七歲位迄 本人來說

本人來說 東六三五元中外問題可能及 東六三五元中外問題可能及 三十一時間從の能安容 三十一時間從の能安容

乜 / Š ボボムニズ〇番本 佐女木 本本本

事、初室、年十七年

母のとさるふ

**齊** 个人们能是是

漢·通 ( | 本八町 ) 三子日 | 第8名:

特別罕贝

日計金 二百二十三個六十七銭也

金五十回 京城市安全市商 日計一萬七千七百廿圓八十六錢也 四八 在心里出凑全庫商 日計一千七百三十三圓三十七錢也

金二團元 大久保護報題店內立花正雄全局上 大久保護報題店內立花正雄全局上 日上金銭青▲同上台三龍▲同上台

第一生命保險相互會社 原城府長沿川町一二

外務社員招聘

